



**Data**

監督・脚本：小林政広  
 出演：眞木大輔 (EXILE) / 吉瀬美智子

---



---



---



---



---



---



---



---

## 👁️👁️ みどころ

金をかけたら面白い映画が？否。男と女の会話劇だけで成立する本作をみれば、それがよくわかる。なぜ、女は一人リヨンの赤い橋の上で佇んでいたの？なぜ男は彼女に声をかけたの？限られた時間内で、2人の仲はいかに進展？大阪のひっかけ橋での出会いとも、一世を風靡した春樹と真知子の数寄屋橋での出会いとも違う、面白い展開に注目！しかして、あっと驚く結末とは？

\* \* \* \* \*

### 2度目×2度目は、いかに？

小林政広監督の『完全なる飼育 / 女理髪師の恋』(03年)はシリーズの中ではエッチ度が低く、ストーリーの面白さを味わう作り方になっていたのが意外だった(『シネマルーム3』362頁参照)。そんな私は、ロカルノ映画祭グランプリ他4部門を受賞した『愛の予感』(07年)を見逃していたから、同監督の作品を観るのはこれが2度目。

他方、私は人気絶頂のEXILEが歌い踊る姿をテレビで観ることはほとんどないが、映画でMAKIDAこと眞木大輔を観るのは今回が2度目。それは塩屋俊監督の『きみに届く声』(08年)にはじめて主演した眞木大輔を観たから(『シネマルーム21』188頁参照)。

このように『白夜』は2度目×2度目だが、そこで眞木大輔はどんな演技を？また小林監督はどんな演出を？

## 吉瀬美智子は、はじめて

本作で眞木大輔と共演する吉瀬美智子はモデル出身で最近テレビドラマによく出演しているらしいが、本作を観るまで私は全く知らなかった女優。チラシを見る限りでは高島礼子似(?)の美人女優のようだ。また、ネット情報では「衝撃の濃厚キスシーンも?!」と書いてあったから、そのシーンには注目しなくちゃ。もっとも、ストーリーの核はフランスのリヨンにある赤い橋の上で展開される2人劇のようだから、どちらかという舞台風・・・?

そんな、期待と不安の入り混じった気持で本作を、そして女優吉瀬美智子を鑑賞しに出かけたが・・・。

## 声の掛け比べ - 大阪のひっかけ橋VSリヨンの赤い橋

大阪はもともと水の都で八百八橋が有名。大阪ナンバの道頓堀川にかかる戎橋はそのうちの1つだが、ここは「ひっかけ橋」として有名。その名前の由来は?そしてまた、週末ともなればそこで展開される数々のひっかけ劇は?

それはそれで活気があって面白いが、本作で小林監督が描くフランスのリヨンにある赤い橋の上は人通りも少なくひっそり。そこに一人佇んでいるのが、日本から一人やってきたOLの相沢朋子(吉瀬美智子)。そこを通りがかったのが、バックパッカーとして海外を放浪して1年になる男、木島立夫(眞木大輔)。そんな状況下で木島が朋子に声をかけたところから2人の会話劇が始まり、その日の夜の列車に乗らなければならない木島と橋の上で午後からずっと男を待っている朋子との恋模様(?)が展開されていくわけだ。

近時は邦画でも1本の映画製作費が10億円というもザラだが、こんな風に登場人物を減らし、状況を狭く設定し、論点を絞っていくと製作費が安上がりになるのは当然。そして、製作費の多寡と映画の出来の良し悪しは正比例しないから、本作の出来が大いに楽しみ。さて、ひっかけ橋ならぬリヨンの赤い橋の上で木島は朋子に対してどんな切り口から声をかけ、会話を継続していくの?こりゃひょっとして、婚活の教科書としても有効?

## そこまで入り込むか?木島はB型?朋子はA型?

眞木大輔は『きみに届く声』で繊細な心を持ったドクターの役を演じたが、そこでのテーマは「強くなりたい!」だった。しかして、本作における木島も繊細で傷つきやすい心を持った青年であることが、中盤以降の会話から次第に明らかになっていく。しかし、いきなり声をかけた朋子に対して、「男を待ってるの?相手は妻子持ち?不倫?」とたたみかける問いかけはデリカシーに欠けているばかりか、「そこまで入り込むとは、こいつバカか」

と思うほど。しかしそれは木島なりの精一杯の努力のようだから、多分木島の血液型はB型？

それに対して朋子は、なぜ橋の上で2時間半も立っているの？どんな思いでOLが一人で日本からリヨンにやってきたの？そして今、どんな思いで彼を待っているの？それについても徐々に朋子の口から語られていくが、その計画性の確かさからみれば朋子の血液型は多分A型？そんな朋子だから、いきなり見知らぬ男から声をかけられたうえ、心の痛みの部分にグイグイ突き刺すような言葉をかけられたらムカつくのは当然だ。

映画冒頭の2人の出会い、というより木島の朋子に対する声のかけ方（ひっかけ方）は最低だが、それでも2人間の会話が続き、心のふれ合いが増幅していくのだから、男と女は面白い。ただしこれは、異国の地リヨンの赤い橋の上で、それぞれ事情を抱えた男と女がたまたま出会ったから生まれる風景。軽いノリでのひっかけの成就を目指す大阪のひっかけ橋では、そうはいかないはずだ。

## 結末比べ - 『君の名は』VS本作

昭和20年5月24日の東京大空襲の日、東京の数寄屋橋を舞台として展開される後宮春樹と氏家真知子の物語が、戦後日本の一世を風靡した菊田一夫原作の『君の名は』（53年）そのNHK連続ラジオドラマが放送されていた頃、放送時間帯の女風呂が空っぽになったという話はホントに本当らしい。私も小学生時代によくラジオ放送を聴いていたことを今でも覚えているが、あれは再放送？春樹と真知子が固く約束した数寄屋橋での半年後の再会はならなかったが、1年後に2人は遂に再会。しかし、その後展開していく物語と、何とも悲しい結末とは？

それに対して、本作における木島と朋子の仲の進展具合は良好。その転機になったのは、木島が「俺が企画したオブショナルツアーに参加しない？費用はそっち持ち。」ともちかけたことに朋子が乗ってきたこと。そんな中、遂に2人間には濃厚なキスシーンまで訪れるわけだ。このまま「白夜」というタイトルが意味をもつ展開になればラッキーだが、そんなにうまくいくの？しかし、本作の結末は？それは、『君の名は』と対比しながらあなた自身の目でじっくりと。

2009（平成21）年7月23日記

弁護士 坂和章平



のMAYE!  
LAW DE!  
SHOW

97

## 「白夜」

(きょうからなんばパークスシネマほかで公開)



©2009「白夜」製作委員会

# 男と女、会話劇の神髄を

大阪では道頓堀川に架かる戎橋が「ひっかけ橋」として有名だが、フランス・リヨンの赤い橋の上で展開される男と女の会話劇とは、「きみに届く声」(2008年)で

強くなりたくないと願う繊細な医師を好演したEXILEの眞木大輔演ずるバックパッカー木島が、橋の上で立ち続ける朋子

(吉瀬美智子)に声を掛けたのはなぜ? 男を待ってるの? 相手は妻子持ち? 不倫? とたみ掛ける姿は無神経の極みだが、これも一種の口説きのテクニク?

逃げるように離れた朋子との会話が復活したのは、「帰国までまだ時間が。俺のオプショナルツアーに参加しないか?

費用はそっち持ち」という奇妙な木島の提案に朋子が同意したため。そんなちょっとした気まぐれから物語は次第に佳境に入っていく。別れた恋人を日本からバカみたいに追っかけ、留守だった男に「橋の上で待ちます。午後からずっと」と書き残した朋子はいつまで待ち続ける気だったの?

女心は実に不可解だ。こりゃ男女の機微を描くのに長けたフランス映画? と思っばかりの恋の炎の点火とその展開に注目したい。戦後日本で一世を風靡した菊田一夫原作のNHKラジオドラマ「君の名は」(19953年)では、1年後に数寄屋橋での春樹と真知子の再会が実現したが、さて本作では? ここまで打ち解ければ、それまで利根的だった2人の心も前向きに?

そんな予測は、あなたが恋の道に未熟な証拠。「愛の予感」(07年)でロカルノ映画祭4冠に輝いた小林政広監督が用意した、あっと驚く結末とは?

男と女の出会いには千差万別。その展開も多種多様だ。低予算で実現させた舞台劇のような狭い空間で展開される84分間の会話劇は絶品。会話から生まれる大人の愛の姿をしっかりと学びたい。

大阪日日新聞 2009(平成21)年9月19日